

喘息とは

発作的に咳、痰が増え、ヒューヒュー、ゼーゼーと呼吸が苦しくなる病気です。成人の喘息患者数は人口の約3%ですが、1960年代(1%弱)とくらべてその数は増えてきています。

また喘息で死亡する患者数は国内で毎年 6,000 人程度でしたが、90 年代後半から約 2,000 人程度と減少しています。ステロイド吸入薬が治療薬として普及したからと考えられています。喘息患者さんの気管支には慢性的な炎症があり、粘膜が腫れたり、カサカサになったり、痰が増加しています。この時、気管支は様々な刺激に過敏になっており、例えばタバコの煙、冷たい空気、風邪、気圧の変化によっても気管支は収縮し、喘息発作を起こします。こういった慢性的炎症を抑えるのがステロイド薬で、副作用の殆どないステロイド吸入薬が喘息治療の大黒柱となっているわけです。



喘息は発作がないからといって治ったわけではありません。喘息の体質は生涯続き、これを完治させる治療法はまだ見つかっていません。大切なことは、発作が起きないように、また起こっても早く適切な治療を受けられるように、うまく喘息と付き合っ、コントロールしていくことです。

「この程度なら大丈夫」と我慢したり不十分なコントロールを続けていると、発作がなくても息切れを感じるなど症状が慢性化していきます。しかし、うまくコントロールできれば健康な人と何ら変わらない日常生活を送ることができます。喘息の患者さんにはそれを目指して喘息と向き合っただけだいたいと思います。私ども内科医も、微力ながらお手伝い、応援をさせていただきたいと考えています。